

参考資料－ 1

ExTEND2005 に基づく平成 20 年度基盤的研究課題、野生生物の生物学的知見研究課題及びフィージビリティースタディー研究課題について

平成 20 年度に採択された基盤的研究として 6 課題、野生生物の生物学的知見研究として 3 課題及びフィージビリティースタディーとして 9 課題が実施中である。

調査・研究内容については、ExTEND2005 基盤的研究企画評価検討部会及び ExTEND2005 野生生物の生物学的知見研究検討部会による合同検討部会で協議の上、決定した。

研究課題の平成 20 年度成果については、平成 21 年 3 月 17 日（火）に開催予定の「基盤的研究及び野生生物の生物学的知見研究成果発表会」で報告し、評価を行うこととしている。

1. 平成 20 年度基盤的研究採択課題

平成 20 年度については下記 6 課題を実施している。

- 課題 1. (基盤 1) 哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析
- 課題 2. (基盤 2) 胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function とその性分化の可塑性
- 課題 3. (基盤 3) 胎仔期、新生仔期の食餌による環境化学物質代謝・排泄機能への影響調査
- 課題 4. (基盤 4) 核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構
- 課題 5. (基盤 5) 野生生物のリスク評価を目指した核内受容体リガンドの網羅的解析法の開発
- 課題 6. (基盤 6) メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究

2. 平成 20 年度野生生物の生物学的知見研究採択課題

平成 20 年度については下記 3 課題を実施している。

- 課題 1. (野生 1) 野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析
- 課題 2. (野生 2) 東京湾における生態系かく乱の実態解明とその要因解析
- 課題 3. (野生 3) アカトンボ減少傾向の把握とその原因究明

3. 平成 20 年度フィージビリティースタディー採択課題

平成 19 年度にフィージビリティースタディー研究課題として実施した以下の 4

課題については、本年度もフィージビリティスタディー研究課題として採択した。

- 課題 1. (19FS1)ステロイド膜受容体を標的とした化学物質の内分泌かく乱作用に関する研究
- 課題 2. (19FS2)精子に存在するホスホリパーゼ A₂ 活性の阻害を介した環境化学物質の新たな内分泌かく乱作用機構に関する研究
- 課題 3. (19FS3)シャジクモ類の衰退要因解明に向けた環境負荷化学物質の影響に関する生理・生態学的研究
- 課題 4. (19FS4)両生類への性ホルモン様物質暴露による精巣卵形成についての研究

また、平成 20 年度については下記 5 課題をフィージビリティスタディー研究課題として採択した（基-2 参照）。

- 課題 5. (20FS1)魚食性猛禽類「ミサゴ」の生態とその食物連鎖に関する基礎的研究
- 課題 6. (20FS2)化学物質誘発性のエピジェネティック修飾による DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease)モデルの検証
- 課題 7. (20FS3)メダカの再生産に及ぼす化学物質およびその代謝物の影響とトキシコゲノミクスによる作用機序の解明
- 課題 8. (20FS4)海産無脊椎動物ホヤのトキシコゲノミクス基盤研究と生態調査
- 課題 9. (20FS5)多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の構造活性相関に基づく魚鱗の化学物質スクリーニング法に関する研究

平成 20 年度 ExTEND2005 基盤的研究、野生生物の生物学的
知見研究及びフィージビリティースタディー研究課題

| 区分 | 代表研究者 | 所属 | 研究課題名 |
|-------|-------|---------------------------|--|
| 基盤的研究 | | | |
| 基盤 1 | 青山 博昭 | 残留農薬研究所 毒性部 | 哺乳類を用いた毒性実験の結果 に影響を及ぼす実験動物の遺伝 的要因解析 |
| 基盤 2 | 中西 剛 | 岐阜薬科大学 衛 生学研究室 | 胎児期におけるエストロゲンシ グナルの gain of function とその 性分化の可塑性 |
| 基盤 3 | 太田 茂 | 広島大学大学院 医歯薬学総合研究 科 | 胎仔期、新生仔期の食餌による環 境化学物質代謝・排泄機能への影 響調査 |
| 基盤 4 | 鯉淵 典之 | 群馬大学大学院 医学系研究科 | 核内ホルモン受容体による転写 調節における環境化学物質の作 用機構 |
| 基盤 5 | 岩田 久人 | 愛媛大学 沿岸環 境科学研究センタ ー | 野生生物のリスク評価を目指し た核内受容体リガンドの網羅的 解析法の開発 |
| 基盤 6 | 長濱 嘉孝 | 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 | メダカの生殖内分泌系に及ぼす 化学物質の内分かく乱作用の 作用メカニズムに関する研究 |

| 野生生物の生物学的知見研究 | | | |
|---------------|-------|----------------------------|--------------------------------|
| 野生 1 | 濱口 哲 | 新潟大学 自然科 学系 | 野生メダカの性分化異常に関わ る基礎的情報の収集と解析 |
| 野生 2 | 堀口 敏宏 | 国立環境研究所 環境リスク研究セ ンター | 東京湾における生態系かく乱の 実態解明とその要因解析 |
| 野生 3 | 上田 哲行 | 石川県立大学 生 物資源環境学部 | アカトンボ減少傾向の把握とそ の原因究明 |

| 区分 | 代表研究者 | 所属 | 研究課題名 |
|------------------------------|-------|-----------------|--|
| 19年度採択フイージビリティースタディー (19F S) | | | |
| 19F S 1 | 徳元 俊伸 | 静岡大学 理学部 | ステロイド膜受容体を標的とした化学物質の内分泌かく乱作用に関する研究 |
| 19F S 2 | 原 俊太郎 | 昭和大学 薬学部 | 精子に存在するホスホリパーゼA ₂ 活性の阻害を介した環境化学物質の新たな内分泌かく乱作用機構に関する研究 |
| 19F S 3 | 白岩 善博 | 筑波大学 生命環境科学研究科 | シヤジクモ類の衰退要因解明に向けた環境負荷化学物質の影響に関する生理・生態学的研究 |
| 19F S 4 | 高瀬 稔 | 広島大学 理学研究科 | 両生類の性ホルモン様物質暴露による精巣卵形成についての研究 |
| 20年度採択フイージビリティースタディー (20F S) | | | |
| 20F S 1 | 由井 正敏 | 岩手県立大学 総合政策学部 | 魚食性猛禽類「ミサゴ」の生態とその食物連鎖に関する基礎的研究 |
| 20F S 2 | 大迫誠一郎 | 東京大学 医学系研究科 | 化学物質誘発性のエピジェネティック修飾によるDOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)モデルの検証 |
| 20F S 3 | 有菌 幸司 | 熊本県立大学 環境共生学部 | メダカの再生産に及ぼす化学物質およびその代謝物の影響とトキシコゲノミクスによる作用機序の解明 |
| 20F S 4 | 安住 薫 | 北海道大学大学院 薬学研究院 | 海産無脊椎動物ホヤのトキシコゲノミクス基盤研究と生態調査 |
| 20F S 5 | 早川 和一 | 金沢大学 医薬保健研究域薬学系 | 多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の構造活性相関に基づく魚鱗の化学物質スクリーニング法に関する研究 |